

令和6年度延岡市立恒富中学校 学校評価 学校運営協議会

1. 生徒のアンケート及び考察より

- 成果からは、生徒たちが落ち着いた環境で社会性をはぐくんでいることが読み取れた。
- 全体的に「強く思う」「思う」のプラス評価が82%で、生徒は集団生活に適応し、比較的順調な学校生活を送っている。
- 授業に関する評価項目のプラス評価も80%、全体的に誠実に根気強く授業に取り組んでいる。
- 生徒の自己評価では、学校生活行動の評価項目で90%を超え、全般において規律や秩序を遵守し、自覚して良好な集団生活を営んでいる。
- 教師と生徒、生徒同士の対人関係も良好(88%)で、先生方が日ごろから生徒へ賞賛、共感、承認、叱咤激励等の声掛けや行動をされておられることがよくわかる。
- 恒中のキャリアデザイン学習を深化させていけば、将来の職業選択や人生設計の目標への希望が見えてくるのではないかと。学年が上がるにつれて意識も変化しているのではないかと。少子化が進み、生徒の将来は「売り手市場」となり、金の卵であろう。
- 服装や身だしなみがきちんとしている。ルールを守りあいさつができる。→学校以外の人から見る恒中生のイメージの良さに結びついている。
- 「学校の宿題や行事に積極的に取り組んでいる」のパーセンテージが高めで、子どもたちの意欲や前向きな感じがする。
- 交通ルールについても、9割の生徒が安全を心がけていると回答しているのは、日頃の家庭や学校の意識づけがうかがえる。
- 将来の目標への希望が半数以上と高いのは、「キャリアデザイン」をやった甲斐があったと感じる。
- 授業に対し、しっかりと取り組んでいる様子がうかがえる。
- ルールや決まりごとに対しても、積極的に守っている様子がうかがえる。
- 人間関係も良好であり、全体的に楽しんでいる様子がうかがえる。
- 読書の習慣性、読書力の向上は、読解力を高めるためにも必要。
- 信頼できる先生がいない、どの生徒にも公平に指導していない、という先生への信頼感は、多感な子どもたちの学校生活によくない影響をもたらすのではないかと。
- 一人一人の内面について、自信のなさや考える力の不足が読み取れた。成果を土台に、うまく課題の改善につながると良いと思った。
- 生徒は習い事もあり、帰宅後の時間に余裕がなく、宿題をこなすのに精一杯ではないだろうか。各教科担で宿題を調整し、自主学習や読書の時間を短時間でも作れるような生活設計を奨励したい。
- 現在の学習指導要領に準拠した教科書は指導内容が多く、一年間で効率的に指導を終えるには一斉指導にならざるを得ない現場の実情がある。個別最適な指導を展開していく

ためには、指導内容を縮減し時間の余裕が必要だ。指導に余裕が生まれれば市との自発的な発言もより活発になるに違いない。

- およそ20%の授業マイナス評価の生徒への手厚い指導・支援が急務となっている。学業のみならず諸活動への取組、その人となりを全人的に受容し、認めはげまして自己肯定感を高めたい。そのために、一人一人に意識的にプラスストロークの声掛けを継続していく。

2. 保護者アンケート及び考察より

- 保護者についても、1(生徒)と同じような印象を受けました。親と子、一緒に共通認識を持って取り組めると良いと思いました。
- 保護者による全体的な学校評価は、プラス評価の78%で、生徒評価より4%低かったが、概ね学校教育活動に理解を示し、信頼を寄せ、生徒個人の成長を認めている。
- 88%の保護者が、集団生活のルールをよく守り、規則正しく学んでいると評価している。先生方の日常指導のご苦労が結実している。
- 授業参観や学校行事への評価が高い。家には見えない学校の運営の有様や成長した生徒の姿を直接参観することができるので、学校教育への理解が深まり信頼が増している。開かれた学校、コミュニティスクール実践への窓口になっている。
- 生徒同士の人間関係が良好だと88%の保護者が回答している。安心して通学させているようだ。
- 学校の電話対応が高く評価されている。学校への信頼の証である。
- アンケートのいろんな項目で、保護者の学校への信頼度が高いと感じられる。
- 我が子が普通以上に取り組んでいると思っている保護者が多く、これが成績とつながっていて満足している割合は？のかなと思った。
- 子供の将来の希望の部分は、パーセンテージが子どもと違って低いのが気になる。(コミュニケーション不足か学校に頼り過ぎているとか？)
- 様々な場面で生徒の活躍の場を設定していない、という保護者の評価が気になる。
- いじめや問題行動に対する不信感や生徒に寄り添っていない、という先生への不信感が子どもたちにも伝わっているのではないか。→子どもにとっても良くない。
- 3割弱の保護者が我が子の学力に不安を抱えている。学力の底上げへの具体的な実践を進めていく。
- 保護者も、自主学習や読書等が足りないと自覚している。家庭教育としても親子で話し合ってほしい。
- いじめや問題行動の対応について3割強の保護者がマイナス評価をしている。具体的に事例について情報交換し、解決していきたい。
- 将来の職業選択や人生設計について、親子でフランクに話し合う場をもってほしい。
- 「学校で生徒の活躍の場を設定しているか」の評価が生徒と保護者ではほぼ正反対になっている。我が子の学校生活の様子が保護者には見えないからだろう。生徒も家庭で話題

にすることも少なくないのではないか。中学生日記、学校、学年、学級通信が保護者の目にふれていないのだろうか。

3. 教職員のアンケート及び考察より

- 成果については、100%(強く思う、思う)の回答も多く、素晴らしいことだと感じました。
 - 先生方の教育活動全般の自己評価は83%と高い。日夜を分かたず努力されていることに敬意を表する。
 - 先生方のコンプライアンス意識も高く、師表たるべく絶えず研鑽を積まれておられる。
 - 生徒の境遇の把握に努め、気持ちに寄り添いながら心を込めて指導・支援に心血を注いでおられ、生徒からの信頼も厚い。
 - 多用な職務の中、学校教育の本務である「わかる授業」「生徒が意欲的に取り組む授業」づくりに全職員で取り組まれ、主体的に授業の改善を目指しておられる。
 - 保護者との日常の情報交換、定期的な教育相談、授業参観や行事等の教育活動の公開、学校、学年、学級の情報発信等に努めておられ、双方向の情報交流が行われている。先生方の自己評価もプラス93%である。
 - ほとんどの項目が前向きな回答で、先生たちの意識の高さがわかる。
 - 生徒や保護者に対し、一生懸命している姿がみえる。思うが予想以上に多く、謙遜しているのではないか。
- △ No.9,19,22,25 の回答が、思うと思わないで半々になっているところが興味深い。
- 生徒の活躍の場を設定できている、生徒に寄り添っている、という先生の評価は、保護者の評価とのずれがある。
 - 先生方はそれぞれ頑張っているかと思うが、生徒・保護者に伝わっていないのではないか。働き方改革もあり、時間が取れないかもしれないが、意思疎通を図る必要があるのではないか。
 - 設問19の ICT の積極的活用が気になりますが、恒中だけの課題なのか、延岡市全体の課題なのか、もう少し情報が知りたいと思った。
 - 「主体的・対話的な学び」「ICT の活用」の授業改善は、教師の課題になっているが、根本的には教育制度の改善が先決であろう。過密な指導内容を厳選し、指導時間にゆとりがなければ進まないのではないだろうか。多用な現在の教育現場で教員の勉勵を促すだけでは解決しないだろう。
 - 「働き方改革」「部活動の地域移行」等の実情はどうだろうか。見えない「持ち帰り仕事」が増えているのではないかと思う。
 - PTA 活動や地域活動への参加への評価は二分されたが、職務の多忙化もあり、負担が大きいのだろう。「開かれた学校、コミュニティスクール」の視点に立つと、無理のない範囲で参加してほしい。また、有能な教職員が居住地の自治会に加入し、できる範囲で参加されると、地域が活性化する。